



Graduate School of Language Sciences

神田外語大学 大学院 言語科学研究科

博士前期(修士)課程

日本語学専攻

- ・日本語学コース
- ・日本語教育学コース

博士後期課程

言語科学専攻



言語と言語教育の スペシャリストを育てる

「言語とは何か」という問いは、「ヒトとは何か」という人間の本質に通じる問いです。大学院では、言語の音、語彙、意味、文法やその運用など、言語の仕組みや体系について探究するとともに、母語以外でコミュニケーションすることの意味や、言語教育のあるべき姿について、理論と実践から迫ります。グローバル化が進み、第二言語、第三言語の習得の重要性が増している中、言語指導技術や、教材の開発も急務になっています。

大学院アドミッションポリシー

神田外語大学大学院言語科学研究科では、本学建学の理念「言葉は世界をつなぐ平和の礎」に立ち、「言語科学」の観点から行われる言語研究、言語教育研究、コミュニケーション研究によって人間理解、国際・異文化交流を促進し、社会と世界の平和と発展に寄与することを目標として研究と教育を行っています。

博士前期課程では、これらの分野の基礎研究に従事する研究者と社会の要請に実践的に応えることのできる高度専門職業人を、博士後期課程では、言語研究と言語教育の分野で先導的かつ指導的役割を果たすことができる専門家を養成しています。そこで、本研究科は以下のような人材を求めています。

- 言語研究と言語教育の分野で多角的な研究を実践し研究者・専門家をめざす人
- 高度専門職業人として創造性と実践力のある英語・日本語教育のスペシャリストを志向する人
- 言語のエキスパートとして、広い視点に立って言語・言語教育の研究に意欲を持つ人

本研究科が求める人材

- 日本語の研究と教育を通してグローバル時代の人材育成に貢献したい人。
- グローバル時代に求められる言語のスペシャリストとして、言語についての専門的な知識を身につけたい人。
- 最新理論に基づき、日本語を中心とする言語研究、言語教育研究、言語習得の研究を行いたい人。
- 日本語の記述的事実をもとに、日本語の実態を明らかにする研究を行いたい人。



博士前期(修士)課程(日本語学専攻)

興味に応じて学べる2コース

日本語学専攻には次の2コースが設けられ、日本語や日本語教育に関連する各分野に、より高度な専門性をもってアプローチすることが可能です。授業科目は共通のため、自分の必要と興味に応じて科目を選択することができ、在学中にコースを変更することも可能です。

日本語学コース

日本語学コースの一つの柱は、今日の言語理論の研究成果を踏まえ、日本語の構造的性質を明らかにし、日本語の個別性から言語の普遍性を解明していくことです。もう一つの柱は、方言をはじめとする変容・多様性に関する研究です。日本語の理論的追究と、実態研究が相互補完的に行われ、バランスの取れた日本語研究を行うことができます。さらに語彙、意味、語用、談話を研究することにより、感覚に頼らず、言葉の深いロジックに基づいた翻訳や書籍の編集を行うための知識を身につけることができます。

日本語教育学コース

日本語の教育に関する専門的な知識と技能を身につけ、国内外の日本語教育関連分野で専門家として活躍できる人材を育成します。理論面では、日本語の習得と使用にかかわるさまざまな要因を解明し、効果的な言語習得を促す教育のあり方を探求します。実践面では、学習者のニーズや環境的制約に対応できる創造的な応用力を開発します。また、教育的な観点から言語を分析する力を育成します。

博士後期課程(言語科学専攻)

先導的、指導的役割を果たすことのできる専門家を養成

修士課程で培った言語学、英語学、日本語学、言語教育学、言語コミュニケーションなどの専門分野への興味をさらに深めると共に、より広い視野に立って、言語研究と言語教育の分野で先導的、指導的役割を果たすことのできる専門家を養成します。理論を実証するための実験、良質な資料の収集や分析だけでなく、新しい理論の開拓や応用分野の開発ができるような分析力と創造力を養い、狭い専門分野に閉じこもることなく、総合的、学際的な視野のもとに自らの研究を深めていく研究態度を育てます。

修了要件

博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、次の選択肢のいずれかを満たすことです。

- 研究テーマに関連する科目を中心に履修して32単位以上を修得し、かつ、研究した結果を「修士論文」としてまとめて提出し、最終試験に合格すること。
 - 専攻及び関連分野から幅広く科目を履修して40単位以上を修得し、かつ調査研究した内容を「修士研究報告」としてまとめて提出し、最終試験に合格すること。
- ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績をあげた者は大学院に1年以上在学すれば足りうるものとします。

最近の修士論文・博士論文

【修士論文】

日本語学：「アスペクトとテキスト解釈：限界性・クオリア構造・因果関係の果たす役割」「日本語動詞の多義性と目的語名詞句の特質構造」「日本語と韓国語の非完結相：事象投射理論によるアプローチ」「連体修飾節のサイズと統語構造：関係節と疑似関係節」「日本語のムードと副詞節の階層的分析」「『テイル』と『着』：日中アスペクト対照研究」「『のだ』と『んだ』はどう違うか：談話管理理論の観点から」「日本語の脱形容詞動詞のアスペクト」「日本語の程度到達のアスペクト構造：期間句の解釈」

日本語教育学：「初級日本語学習者の L2 コミュニケーション意欲の特徴および言語産出に与える影響」「L2 としての日本語学習者の推敲作文におけるペアワークの効果」「中級日本語学習者の『断り』における文脈とタスクの影響」「L2語彙学習におけるタスクタイプと繰り返しの効果」「基本動詞の多義的な意味の習得に日本語習熟度と滞り期間が与える影響」「日本語学習者を対象としたリスニングにおけるプレタスクの効果」「日本の看護師国家試験問題の言語的分析」「中国人日本語学習者の母音フォルマント分析」「日本語学習者の外来語の習得—語彙テストとブリーフ調査」

【博士論文】

「日本語後置文の機能と構造—対話の情報構造の観点から—」、「ガ格及びノ格名詞句の位置と認可の方法」、「Applicative and Little Verbs: In View of Possessor Raising and Benefactive Constructions」、「説明文の書き換えが日本語学習者の理解に与える影響—読解の処理レベルにおける簡素化・精緻化の効果—」「文の複雑さ、および読み手の統語知識と作動記憶容量が日本語説明文の理解に与える影響—韓国語母語話者と中国語母語話者の場合—」



研究指導教員

博士前期課程・
博士後期課程研究指導教員

長谷川 信子 教授

Ph.D. (言語学)
ワシントン大学1981年



生成統語論を専門とし、主に日本語と英語の統語現象の考察から、構造構築・操作と文の意味との関係、その接点としての機能範疇の役割の解明が最近の研究テーマです。また、統語論の英語・日本語教育への実践的な応用も考察しています。近年、言語をコミュニケーション・タスク遂行の道具のように扱う風潮が広まりつつありますが、言語の本質は、ヒトの思考・推論などの高次認知能力を支える基盤にあります。言語の具体的な使用の背後にある体系・規則性・法則の把握するには、多様な状況に対応できる応用力には至りません。文法や文構造は古くから扱われてきていますが、ヒトの言語の捉え方との関係で常に新しい発見や興奮があります。言語学系の研究はもちろん、言語教育分野の研究でも、言語教師としての知識の獲得にも、言語一般と個別言語（日本語、英語など）の体系・規則性への興味を喚起し、それを大切にしながら研究を追求していく姿勢を育てます。

担当科目

博士前期課程：言語科学演習、日本語学研究（統語）、修士研究
博士後期課程：言語学特論演習、言語学特殊研究

研究分野・研究テーマ

言語学（統語論）を基盤にした日本語と英語の文法・統語現象の考察、および日英語の対照研究

研究指導分野

言語学、英語学、日本語学、日英語の対照研究、英語教育、日本語教育。
特に、文法や規則性の面からの考察・検討

主要著作

書籍：『日本の英語教育の今、そして、これから』（編著 開拓社 2015）、『70年代先生文法再認識』（編著 開拓社 2010）、『統語論の新展開と日本語研究』（編著 開拓社 2010）、『日本語の主文現象』（編著 ひつじ書房 2007）、『生成日本語学入門』（大修館 1999）など。
論文：“Modality” Handbook of Japanese Syntax. (Mouton 2018)、「日英語に見る主語の意味役割と統語構造」「日英対照 文法と語彙への統合的アプローチ」（開拓社 2016）、「文の階層性と文中要素の解釈」「日本語文法研究のフロンティア」（くろしお出版 2016）、「Thetic Judgment as Presentational,” Journal of Japanese Linguistics 26 (2010) など。

博士前期課程・
博士後期課程研究指導教員

堀場 裕紀江 教授

Ph.D. (教育学)
ミネソタ大学1990年



「〇〇語ができる」とはどういうことでしょうか。母語は（少なくとも話す・聞くについては）知らないうちにできるようになっていたでしょう。でも外国語（あるいは第2言語、以下「L2」）の場合はそういうわけにはいきません。L2の習得に影響を与える要因にはどんなものがあるのでしょうか。L2習得を促進する学習法・指導法とはどのようなものなのでしょうか。熟達したL2学習者はネイティブのような言語知識・能力を持つのでしょうか。L2学習によって一般知識やアイデンティティも変化するのでしょうか。こういった問題に関心があり意欲と行動力のある方、大歓迎です。私は第二言語文化教育学と認知心理学・言語心理学を専門とし、英語教育・日本語教育および教員養成に日米で携わってきました。皆さんがこれからの世界と日本における言語教育というもの視野に入れて高度な専門知識と分析力・研究力を身につけられるように、応援したいと考えています。一緒に頑張りましょう。

担当科目

博士前期課程：言語科学演習、応用言語学研究、日本語教育学研究、日本語習得研究、評価法研究、修士研究
博士後期課程：言語教育学特論演習、言語教育学特殊研究

研究分野・研究テーマ

第二言語文化教育学・第二言語習得研究。主に、日本語・英語の習得と運用（読解・作文・発話）において学習者に関する要因（言語知識・言語習熟度・母語背景・作動記憶・ストラテジー・ビリーフ等）、テキスト・談話に関わる要因（ジャンル・種類・内容・言語的特性など）、タスクに関する要因（種類・指示・構成・複雑さ等）がどのような影響を認知処理と学習に及ぼすか。

研究指導分野

第二言語文化教育学（教授法・指導法・学習タスク、カリキュラム・教材、評価・フィードバック、社会文化・認知・情緒要因の関わり、教師教育）、第二言語・外国語としての日本語習得研究、言語心理学研究（テキスト処理、読み書きと学習）

主要著作

Reading in a Foreign Language (2015.13)、Discourse Processes (2000)、Modern Language Journal (2012, 1996, 90)、Language Learning (1994, 93)、Studies in Second Language Acquisition (1996, 93)、『日本語学』(2015)、『L2としての日本語の習得研究』(2007, 02)等の主要雑誌の他、Task-based language teaching in foreign language contexts (John Benjamins 2012)、Handbook of Japanese Psycholinguistics (Cambridge University 2006)、Methods that work II (Heinle & Heinle 1993)、『英文読解のプロセスと指導』（大修館書店 2002）などに論文を掲載。

博士前期課程・
博士後期課程研究指導教員

岩本 遠億 教授

Ph.D. (言語学)
オーストラリア国立大学1993年



日本語と英語、さらに類型的に全く異なるパプア・ニューギニアの言語を研究し、文法形式と意味の関係について理解を深めてきました。現在、言語研究の分野では、文脈による語の意味の修正についての研究が進んでいます。意味修正は、単文レベルから、談話、語用に至る様々なレベルで行われますが、言語間で意味の修正箇所や種類が異なります。そのため、外国語の場合、表面的に単語や文法を覚えてただけでは、文の意味がつかめないということがしばしば起こるのです。語彙意味論では、理論的、対照言語学的手法を用い、どのような原理に基づいて意味の修正が行われ、文の意味が決定するのかを明らかにしようとしています。ここから得られる知見は、日本語研究にとどまらず、日本語教育や翻訳の分野においても活用できるでしょう。感覚に頼っていた指導や翻訳の落とし穴を発見し、文法的・語彙的論理に裏付けられたものに発展させていく能力を身に付けることが期待できます。

博士前期課程研究指導教員

木川 行央 教授

修士 (文学)
東京都立大学1979年



一口に日本語と言っても、方言をはじめ様々なバリエーションがあります。自分が話している日本語はどのような日本語なのか、自分の母方言は東京のことばとどこがどのように異なるのか、自分の話している日本語はどのように位置づけられるのか、それが私の研究の出発点です。方言には色々な研究分野がありますが、私は、言語地理学的研究、特に過去のデータと現在の状況の比較や、談話資料による、音声・アクセント・文法などの研究を行っています。方言は、日本語の歴史を映し、今後の変化の方向性を探るものとなります。言語地理学的研究は、ことばの変遷と今後について考えることを目的としています。ところで、私たちが使っていると思っていることばと実際に使っていることばが一致しないということがよくあります。談話資料の分析によって、意識ではなく実際のことばを観察しています。そして、ここにもことばの変遷と今後の変化を探る糸口があるのではないかと考えています。

博士前期課程研究指導教員

遠藤 喜雄 教授

Ph.D. (言語学)
ジュネーブ大学2006年



私の本来の専門は英語で、日本の大学院では、英語学 (文法、意味、音声、談話) を研究しました。後に、Luigi Rizzi 氏の指導のもとで、日本語を他の言語と比較対照しながら、「統語」と「談話」に焦点を当てた博士論文を執筆しました。このような経緯で、現在も日本語と英語を並行して研究しています。現在のところ、私が興味を持っているテーマは、(i) 感情を表す疑問文 (英語では、why, how come, what...for、日本語では、かな、かね、かしら等)、(ii) 副詞節の日英比較、(iii) 「—は」「—が」「無助詞」と終助詞などです。私の研究手法は、生成文法の中でも、言語事実重点をおくカートグラフィーという手法です。本大学院では、この分野 (特に統語と談話) で最先端の研究が行われており、少人数での手厚い指導を受けることができます。

担当科目

博士前期課程：言語科学演習、言語学概論、日本語学研究 (語彙・意味)、修士研究
博士後期課程：日本語学特論演習、言語学特殊研究

研究分野・研究テーマ

言語学 (概念意味論) と日本語文法。
主に、テンス・アスペクトの類型論、語彙・意味論、対照言語学 (日本語・英語・アラブラック語)

研究指導分野

言語学・日本語学 (日本語文法、概念意味論、語彙意味論、語用論) 日本語と他の言語の比較対照研究 (主に文法、意味、語彙、テンス・アスペクト対照など)、日本語教育文法

主要著作

書籍：『事象アスペクト論』(開拓社 2008)、Linguistics: In Search of the Human Mind (編著 開拓社 1999) など。

論文：「アスペクトと事象構造の変更—結果持続の類型論に向けて—」『語彙意味論の新しい可能性を探って』(開拓社 2015)、「経路移動事象の両義的限界性と増分性」『レキシコン・フォーラム』No.5 (2010)、「日本語とアラブラック語の授益構文」『日本語学』、「シテイルが持つ継続的状態性と結果の意味」『70年代生成文法再認識』(開拓社 2010)、「Inalienable Possession Constructions in Alamlbak」Linguistics: In Search of the Human Mind, (開拓社 1999) など。

担当科目

博士前期課程：日本語学研究 (音声・音韻)、日本語学研究 (方言・日本語史)、
言語科学演習、修士研究

博士後期課程：日本語学特殊研究

研究分野・研究テーマ

日本語学。特に方言をはじめとする日本語のバリエーションの研究。
現在は言語地理学的研究や自然談話を用いて音声や文法表現を分析している。

研究指導分野

日本語の音声・音韻、方言や若者言葉、性差をはじめとする位相差など日本語のバリエーションに関する研究、社会言語学、日本語教育における言語 (音声指導や語彙指導など)

主要著作

論文：「大井川流域における言語変化—30年前の調査結果との比較から—」『空間と時間の中の方言—ことばの変化は方言地図にどう現れるか』(朝倉書店 2017)、「静岡県松崎町方言のアクセントにおける「ゆれ」の実態—語アクセント調査と談話資料の観点から—」『音声研究』15-3 (2011)、「一人称代名詞としての『自分』」『神田外語大学大学院紀要言語科学研究』17 (2011)、「松崎町池代方言における準体助詞と準体法」『神田外語大学大学院紀要言語科学研究』16 (2010) など。

担当科目

博士前期課程：日英対照言語研究、言語科学演習、談話分析研究、言語文化研究、修士研究
博士後期課程：英語学特殊研究

研究分野・研究テーマ

言語学、英語学、日本語学、日本語と英語の文法・談話、
および日英語を中心とする対照研究

研究指導分野

談話、文法、日英語を中心とする対照研究

主要著作

書籍：『日本語カートグラフィー序説』(ひつじ書房 2014)、On Peripheries (編著 ひつじ書房 2014)、『世界に向けた日本語研究』(編著 開拓社 2013)、Locality and Information Structure (John Benjamins 2007) など。

論文：「英語のバリエーション」『<不思議>に満ちたことばの世界』(開拓社 2017)、「日本語研究の海外発信」『日本語研究とその可能性』(開拓社 2016)、「Two Reasons, Beyond Functional Sequence (Oxford 2015)」、「Adverbial Concord Merging Adverbial Clauses, MIT Working Papers in Linguistics 73 (2015) など。



博士前期課程 科目担当教員

広瀬 和佳子 准教授 博士（日本語教育学）早稲田大学2013年

教師が教育実践の改善をめざして行う実践研究、協働学習（ピア・ラーニング）、学習者のライティング・プロセスなどに関心があります。近年、学習に対する考え方は大きく変化しています。学習とは、知識や情報の蓄積による個人の内的な変化ではなく、学習者が社会的実践に参加していく過程で、周囲の環境との相互作用を通してその関係性を変化させていくことだという見方がされるようになりました。日本語教育を新たな学習観から見直すと、「日本語ができる」とはどのような能力を指すのでしょうか。そのために教師は自分の授業をどうデザインしたらよいのでしょうか。私が担当している「日本語教育教材研究」では、このような授業デザインの観点から教材の役割を考えます。自分自身の言語観・学習観を問い直すことは、研究テーマの発展や深化につながります。

担当科目 日本語教育教材研究

主要著作

書籍：『相互行為としての読み書きを支える授業デザイン—日本語学習者の推敲過程にみる省察的対話の意義—』ココ出版 2015 論文：「『実践研究』から考える質的研究の意義—言語観・教育観・研究観のズレを可視化する議論のために—」『日本語教育のための質的研究 入門：学習・教師・教室をいかに描くか』（ココ出版 2015）、「教室での対話もたらす『本当に言いたいこと』を表現することば—発話の単声機能と対話機能に着目した相互行為分析—」『日本語教育』152号（2012）

サウクエン・ファン 教授 PhD（社会言語学）モナシュ大学1992年

専門は社会言語学です。学部では言語学と中国文学を専攻したのですが、大学院時代にプラグ学派を背景にもつ J. V. ニューストブニー先生の影響を受け、外国語使用（とりわけ外国語としての日本語）にまつわる言語問題のありかたを中心に研究してきました。接触場面と呼ばれる言語使用場面についての理論研究以外に、それらの理論を使ってインターアクションのための日本語教育のプログラム開発や、教材開発などの実践研究にも携わりました。現在の研究テーマは、多文化社会における言語使用の多様性、多言語話者の言語管理・言語政策などが挙げられます。

担当科目 社会言語学研究

主要著作

書籍：『接触場面の言語学：母語話者・非母語話者から多言語話者へ』（ココ出版、共編著 2016）、「日本語でインターアクション」（凡人社、監修 2014）、論文：「外国語使用のバリエーション：母語・非母語を越えた言語行動の多様性」（『ことばと文字』2017）、「Accustomed language management in contact situations between Cantonese speaking Hong Kong employers and their Filipino domestic helpers: A focus on norm selection」（Slovo a Slovesnost, 2015）、「第三者言語接触場面と日本語教育の可能性」（『日本語教育』、2011）など

浜之上 幸 教授 修士（文学）東京外国語大学1990年

私は現代朝鮮語（韓国語）の文法論を主な研究分野としています。その中でも特に、“アスペクト”という文法範疇について研究してきました。現代日本語の「～している」が、動作の進行と動作の結果状態の2つのアスペクトの意味を表しうるのに対し、現代朝鮮語では自動詞か他動詞かによってこの2つのアスペクトの意味を表す形式が異なります。このように、日本語と朝鮮語は非常に似かよった言語でありながらも、微妙な点が異なります。私の講義においては、日本語と朝鮮語の異同に焦点を当て、そこで得られた知識が日本語教育に生かされることを目標とします。

担当科目 日韓対照言語研究（院）

主要著作

書籍：『朝鮮語の入門・改訂版』（白水社 2007）、「朝鮮語を学ぼう・改訂版」（三修社2015）、「韓国語I（16）」（放送大学教育振興会2016）
論文：「現代朝鮮語動詞のアスペクト的クラス」『朝鮮学報』138（1991）、「現代朝鮮語における動作の複数性について」『日本語と朝鮮語・下巻』（くろしお出版1997）、「現代朝鮮語の形態論的範疇について」『朝鮮文化研究』5号（1998）など

パク・シウォン 教授 Ph.D.（第二言語習得）ハワイ大学マノア校2008年

私は、第二言語習得、外国語能力評価、および応用言語学におけるリサーチメソッドを専門としています。最近の研究テーマは、第二言語習得における個人差についてです。大学院では「統計処理法」を担当しています。この授業は、言語学・応用言語学・言語教育・コミュニケーションの研究で多用される代表的な統計手法について基礎的な理解を得ることを目的とし、講義では学生さん自らが統計分析を行いながら、リサーチデザイン、データ収集、測定に関する留意点について学びます。

担当科目 統計処理法

主要著作

論文：“Testing the Comparability of Different L2 Oral Test Tasks” The Journal of Asia TEFL 14-4（2017），“Life in a Multilingual and Multicultural Society:『グローバル時代の異文化コミュニケーション』研究社 2013

徳永 あかね 准教授 修士（人文科学）お茶の水女子大学2000年

現在、日本語教育施策が推進され、社会の中で日本語教育が果たす重要性がますます高まっています。そのため、日本語教師は日本語を教えるだけでなく、日本語の授業を取り巻く社会背景も視野に入れた授業のデザインが求められる時代になってきました。日本語教育実習の授業では、従来のコースデザインに加え、プログラムの視点で授業を捉え、この授業を履修する学生の教授観を大切にしながら、どのように授業を組み立てていくかを学びます。

担当科目 日本語教育実習

主要著作

書籍：初級日本語教科書『日本語でインターアクション』（凡人社）共著、NHK WORLD「Easy Japanese」（海外向け日本語ラジオ講座）監修（2015年～現在）
論文：「日本語のフォリナー・トーク研究：その来歴と課題」『第二言語習得・教育の研究最前線— 2003年版』、「地域定住外国人人材活用に向けた課題」『神田外語大学紀要』第25号（2013）

サンス・リベラ・アルセニオ 准教授

博士(応用言語学)
スペイン国立通信教育大学
2013年

私は、外国語(主にスペイン語)の学習過程における認知要因の役割を研究しております(記憶システム、知覚、注意、モチベーション、言語学習スキル、人の感情、性格など)。学習者にとって学ぶとは(新しい情報を理解した上の活躍)そして教師の立場から教えるという概念(一方的に情報を与えることなく、学習者の理解ができる範囲で新知識を与え、活用させる)に基本的な枠組みとして様々な側面から研究しております。大学院の授業では、認知言語学とは何かという基本的なことから、簡潔に解り易くアプローチしていきます。外国語を学習する過程で、脳内で起きる変化に注目し、認知言語学の役割と必要性についての理解を深めていきます。

担当科目

日西対照言語研究(院)

主要著作

論文:外国語学習者におけるスペイン語作文の考案、(清泉女子大学人文研、紀要、2007)E/LE con estudiantes discapacitados.(目の不自由がある学習者のスペイン語教授法(成蹊大学文学部、紀要、2013)La autoconciencia en el aprendizaje de una lengua extranjera. Un acercamiento a los conceptos de atención, comprensión y memoria.(上智大学、日本イスパニヤ学会 No.59、2013)
書籍:Fundamentos en Linguística Cognitiva. Una introducción a la autoconciencia en el aprendizaje de E.L.E.(Seigan International S.L.出版社2014)
スペイン語の教科書『Acércate!スペイン語に親しむ16講』(朝日出版社 2018)

町田 明広 准教授

博士(文学) 佛光大学2009年

私の専門は日本近現代史、特に明治維新史ですが、日本に関する文化・思想・政治・経済など、様々な分野に関心を持っています。担当する「日本研究」では、世界から見るとユニークな日本および日本人ですが、そもそも、どのような国家であり国民性なのか、その特異性を主として歴史学的手法からアプローチします。また、その際、常に意識するのはグローバルな視点です。世界との関わりの中で、150年前の幕末期から現代に至る日本の近代と現代が、どのように形作られてきたのかを多角的に研究します。なお、本学図書館は黎明期の洋学資料を中心とした神田佐野文庫を所蔵していますが、その一部を生きた教材として使用します。

担当科目

日本研究

主要著作

書籍:『島津久光=幕末政治の焦点』(講談社選書メチエ2009年)、『幕末文久期の国家政略と薩摩藩—島津久光と皇政回復』(岩田書院2010年)、『攘夷の幕末史』(講談社現代新書、2010年)、『グローバル幕末史』(草思社2015年)、『西郷隆盛 その伝説と実像』(NHK出版2017年)、『薩長同盟論』(人文書院2018年)、『新説 坂本龍馬』(集英社2019年)
論文:「長州藩処分問題と薩摩藩 - 幕府・越前藩関係を中心に」『神田外語大学日本研究紀要』(11) (2019)、「慶応元年中央政局における薩摩藩の動向 - 将軍進発と条約勅許を中心に」『神田外語大学日本研究紀要』(10) (2018) 他

専門性を活かした進路

本学大学院は1992年に設置されて以来、200名以上が修士号を、14名が博士号を取得しました。修了者は、国内外の大学や日本語学校などの教育研究機関で、研究者としてまた、教員として活躍しています。本大学院の修了者には、神田外語大学の国際協定校での日本語教育の道も開かれています。さらに一般企業で専門性を活かして活躍する人も多くいます。

授業科目一覧

共通科目群

- 言語科学演習 ●修士研究 ●統計処理法 ●日本語アカデミックライティング(留学生用)

言語研究科目群

- 言語学概論 ●日本語学研究(音声・音韻) ●日本語学研究(統語) ●日本語学研究(語彙・意味) ●日本語学研究(方言・日本語史) ●日英対照言語研究 ●日中対照言語研究 ●日韓対照言語研究(院) ●日西対照言語研究 ●言語習得研究 ●言語学特論

言語教育研究科目群

- 応用言語学研究 ●日本語習得研究 ●評価法研究 ●日本語教育学研究 ●日本語教育文法研究 ●日本語教育教材研究 ●言語教育学特論 ●日本語教育実習

コミュニケーション言語文化研究科目群

- 異文化コミュニケーション研究 ●日本研究 ●言語文化研究 ●比較文化論 ●比較文学研究 ●談話分析研究 ●社会言語学研究

大学院シラバス検索はホームページから行えます。 <https://camjweb.kuis.ac.jp/portal/slbsskgr.do>



日本語教育教員養成プログラム修了証

日本語教育教員養成プログラム修了証は、コースにかかわらず社会・文化・地域に関わる領域、教育に関わる領域、言語に関わる領域全体から合計28単位以上修得する条件を満たした者に与えられます。

科目等履修生と研究生

科目等履修生とは、修士課程に在籍せずに、科目だけの履修により単位の修得ができる制度です。正規の学生と一緒に受講し同等に評価されます。また、修士号をすでに取得している人で、特定の研究課題について研究指導を受けたい人には、研究生の制度があります。

ティーチング・アシスタント制度

教員が担当する学部または大学院修士課程の学生に対する講義、実習、演習、試験等での教育補助業務を行い、この経験を通して、将来の研究者、指導者としての素質を養うことを目的としています。

入学希望の方へ

願書および入試概要

博士前期（修士）課程の入学試験は、10月（Ⅰ期入試）と1月（Ⅱ期入試）と3月（Ⅲ期入試）の3回行います。博士後期課程の入試は1回です。詳細は大学院ホームページ（<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/grad/applicant/>）をご覧ください。

過去問題入手方法

希望者には、博士前期（修士）課程日本語学専攻の入学試験問題集を送付します。

●名前 ●郵便番号 ●住所 ●電話番号 をメールに記載し送信ください。件名は、「大学院過去問題請求」としてください。ただし、過去問題は、ダイジェスト版として、ホームページにおいて PDF で見ることができます。

学費

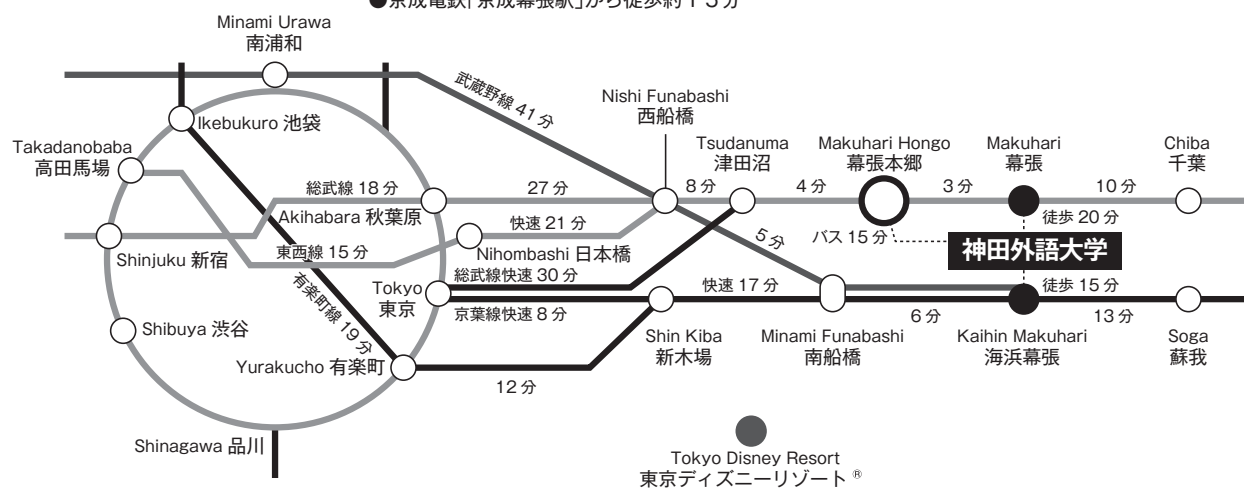
●1,370,000 円（入学金 250,000 円／授業料 890,000 円／施設設備費 230,000 円）※2年目学費は入学金をのぞいた 1,120,000 円

留学生対象 給付型奨学金

ロータリー米山奨学金、小貫奨学金

〈主な交通機関と所要時間の目安〉

- JR 京葉線「海浜幕張駅」から徒歩 15 分、または北口 6 番バス乗場よりコロンブスシティ線約 5 分
- JR 総武線「幕張駅」から徒歩 20 分
- JR 総武線・京成電鉄「幕張本郷駅」南口 5・6 番バス乗場よりコロンブスシティ線約 8 分／幕張学園循環線約 15 分
- 京成電鉄「京成幕張駅」から徒歩約 15 分



神田外語大学大学院

〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉 1-4-1

TEL : 043-273-1320 (Office Hours : 月～金 10:00 ~ 17:00)

e-mail : infograd@ml.kuis.ac.jp